

【令和元年度第1回】江差町総合戦略検証委員会 議事録

開催日時 令和元年10月4日（金）  
午後1時30分～午後3時50分  
開催場所 江差町役場 1階保健センター

[会議次第]

- 1 開会
- 2 町長挨拶 江差町長 照井 誉之介
- 3 委員長挨拶 北海道教育大学函館校国際地域学科 准教授 古地 順一郎
- 4 会議成立宣言 (江差町総合戦略検証委員会設置要綱第6条第2項)
- 5 議長選出 (江差町総合戦略検証委員会設置要綱第6条第1項)  
江差町総合戦略検証委員会 古地 順一郎 委員長
- 6 議事  
議案第1号 第1期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略及び第1期江差町人口ビジョンの  
総括効果検証について(前4年間の実績と今年度実績見込みに係る検証)

【説明(活用)資料】

- (1) 江差町総合戦略 年度ごと成果調査シート **事前配布済**
- (2) 地方創生関連交付金事業一覧 **事前配布済**
- (3) 第1期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括検証に係る検証委員意見に対する回答書 **事前配布済**
- (4) 産業振興課所管事業の添付資料(グラフ等) **事前配布済**
- (5) 第1期江差町人口ビジョン達成状況に係る検証結果 **事前配布済**
- (6) 第1期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略及び第1期江差町人口ビジョン **事前配布済**
- (7) 可視化資料 **本日本配布資料**

【資料説明】

本検証委員会の開催前に会議資料(1)～(6)は事前配布しているため説明を割愛し、資料(7)の「可視化資料」を一括して各所管課より説明した。

●説明順：まちづくり推進課 → 追分観光課 → 産業振興課

また、可視化資料の説明に引き続き、人口ビジョン及び総合戦略KPI達成状況の検証結果(資料(1)、(5))について、まちづくり推進課より説明した。

【質疑応答及び意見交換(検証作業)】

資料説明の終了後、一括して検証作業としての質疑応答及び意見交換を行った。

【検証結果の総括】

質疑応答及び意見交換の結果をまとめ、古地委員長が総括した。

- 7 その他
- 8 閉会

[出席者]

◎委員 委員長 古地 順一郎  
副委員長 鈴木 玲一  
委員 西海谷 朝子, 田畑 昌伸, 北見 孝幸, 北浦 勇, 中野 志帆  
委任状 濱谷 孝友, 藤島 富, 紺井 一重, 庄司 寛, 久米 早苗  
以上12名(全17名中)

◎町 照井 誉之介<sub>町長</sub>  
まちづくり推進課 出崎 雄司<sub>課長</sub>, 長尾 恵一<sub>主幹</sub>, 西山 和男<sub>まちづくり推進係長</sub>  
追分観光課 南出 徹<sub>主幹</sub>, 澤田 博生<sub>観光係長</sub>

産業振興課 大杉 則明<sup>課長</sup>  
健康推進課 白鳥 智子<sup>課長</sup>  
町民福祉課 岸田 礼治<sup>課長</sup>  
◎町教委 太田 誠<sup>教育長</sup>  
社会教育課 大坂 敏文<sup>課長</sup>  
以上11名

以上、合計23名

---

## 議 事 録

(午後 1 時30分)

### 1 開会

### 2 町長挨拶

(照井町長)

本日は、大変お忙しい中、令和元年度第1回江差町総合戦略検証委員会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

今年も10月となり下半期に入りました。令和元年、時代が変わった年であります。そのなかで総合戦略に関しましても、来年度に向けて今年までの総合戦略の計画がどのように進んでいるのか、又、その効果がどうなのかという点について、しっかりと検証したなかで来年度以降の総合戦略に取り組んでまいりたいと思っております。

国や各自治体は、地方創生を盛んに言ってきた訳ですが、人口減少や少子高齢化をどのように解決していくのかということで、本当に大事な取り組みであると思っております。

特に江差町としては、観光を中心に各産業にどのように効果を広げていくべきか、観光に力を入れていくことによって、地域の産業を支えていきたいという大きな柱がございます。

そういう取り組みを、これまでどう取り組んできたのか、それをどう検証するのか、しっかりやる必要があると思えます。

限られた財源のなかで、どの事業に予算を配分していくのか、非常に難しいところでございます。しっかりと検証したなかで、民間の皆さんのお知恵やご意見をしっかりと反映しながら、取り組みを進めてまいりたいと思えます。委員長には北海道教育大学の古地先生に来ていただいて、中心的に取り進めをお願いしているところです。ぜひ、皆様方からの忌憚のないご意見をお聞かせ願いながら、この委員会を進めていただくようお願い申し上げます。

### 3 委員長挨拶

(古地委員長)

皆様、こんにちは。北海道教育大学の古地でございます。本日はお忙しいなかお集まりいただきましてありがとうございます。

早いもので、総合戦略を策定したのが平成28年の3月で、3年半の月日が経ちました。今年度は第6次総合計画を策定しております。そのなかで、重点的な分野に横串を刺して、総合戦略をつくっていくということ、総合戦略も同時に策定作業を進めております。

次の総合戦略を策定するにあたっては、今の総合戦略をきちんと検証することが必要になってきます。今回は、今までにない総括的な検証ということで、皆様のご協力をお願い申し上げます。

すでに事前配布された資料がありますが、江差町の皆さんが、過去3年半に実施してきた取り組みがまとめられております。総括的な検証を進めるにあたって、役場の方々からも相談がありました。

私として大切にしたいことは、取り組みの内容とその成果、取り組みによってどういうことが起きたのか。それを、町民の皆さんにわかりやすく説明できるようにしていきます。理由は、官民一体となってまちづくりを進めていくなかで、情報の共有や情報の発信が重要になってくるからであり、それがなければ建設的な議論や生産的な議論、更には開かれた議論ができない訳です。

現在の総合戦略は、江差の理念だとか目指すべき姿が明確に示されております。その理想に近づくための目標が指標という形で盛り込まれております。他の自治体と比較しても、質の高い総合戦略だと思います。しかし、せっかく良い総合戦略があっても、それをきちんと検証しなければ、宝の持ち腐れとなってしまいます。

検証にあたって大事なことは、目標が達成できたかどうかを○×で示すだけではなく、そこは二の次で良くて、掲げた目標と今ある江差の現状とのギャップにきちんと向き合っ、達成できなかった場合はその原因を考えます。達成できたとなれば何がうまくいったのかという部分を考えながら、次の改善策や強化に繋げていくことが大切です。

議論の材料として、こういうデータが必要になってくるので、今回は、役場の方々と資料の作成にあたって何度もやり取りをさせていただきました。私の方から、検証項目に対して、数十の提案や質問をさせていただきました。多分、皆さんにとっては大変だったろうと思います。しかし、役場の方々には真摯に答えていただきました。皆様のお手元にあるように、様々なデータを出していただきました。相当な時間がかかったものと思います。

こういう議論の材料となるデータが作りあげられています。江差町、皆様、町民にとって、貴重な共有財産となります。ここから、何をしていくのか考えていくことが大事です。データをご覧になっていただくと成果が上がっているもの、もしくは成果の芽が出そうなものが見えてきます。成果が出ているものについては、きちんとそこに光を当てて、更に光らせるためには何をすべきか考えていきます。

一方で当初期待されていた成果が出ていないものがあります。それに対しては正面から向き合っ、その原因を探っ、次のステップに繋げていく作業が、地域を良くしていくための地道な作業が必要になってきます。

話は飛びますが、故シラク元仏大統領が「偉大な国には、その栄光の歴史のみならず、影の部分も含めて全面的に受け入れる。」と述べられておりました。国と町を比べるのは意味が違うのかもしれませんが、政治的共同体という意味では同じだと思います。

私は、江差に関わらせていただいて「江差はすごい町だ。偉大な町だ」と思います。ですから、今回の結果を真摯に受け止めて、プラスもマイナスも受け止めながら、次へ繋がる道をみんなで一緒に考えていきたいと思っておりますので、今回の検証の場、ここに終わることなく、今後の作業も含めて、皆様と活発な議論ができればと思っておりますので、よろしくお願い致します。

(町長、教育長退席)

#### 4 会議成立宣言

(事務局)

江差町総合戦略検証委員会設置要綱第6条第2項の規定に基づき、委員の半数以上の出席があるため会議が成立することを宣言した。

#### 5 議長選出

(事務局)

江差町総合戦略検証委員会設置要綱第6条第1項の規定に基づき、委員長が議長になることを説明した。

(古地委員長)

委員長である古地 順一郎氏が議長に就任した。

(午後1時45分)

## 6 議事

(議長)

第1期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略及び第1期江差町人口ビジョンの総括効果検証について、可視化(見える化)資料に基づき説明を求めた。

### 【説明順】

まちづくり推進課→ 追分観光課→ 産業振興課

(まちづくり推進課長)

江差町ふるさと応援寄附金の概要について、落ち込みの要因については、お礼品価格の3割縛りや、ロットの問題等があります。寄贈型にシフトすることや小さくてもがんばっているところを支援する仕組みづくりを考えてまいりたいです。また、チャンネルを増やして、目に見える機会をつくることも大切であると考えています。

江差町まちづくり推進交付金の概要について、この交付金は、平成28年度から制度設計したものでソフト系5事業、ハード系3事業から成り立っています。地域ブランド開発等支援事業では、北前水産の販路拡大や、ふるさと納税返礼品として江差町の特産品であると思われるように江差町の名前の入ったパッケージの作成支援を行いました。空き店舗等再生促進事業では、この3年間で3件の事業申請がありました。

2018ひやま食・観光フェア、檜山管内7町と東京都特別区との連携事業については、広域連携で行っているもので、町村会が主体となって東京都大田区と連携する事業です。現状では、人流物流ともこちら側からの一方通行の状態にあるので、できれば相手側からもこちら側に来ていただけるように町村会とも議論してまいりたいです。

海・山・川！！障がい者が満喫するバリアフリーレジャーと地域づくりの相互連携事業について、この事業は檜山振興局の社会福祉課が事務局となって、檜山管内をバリアフリーレジャーの先進地にしたいということで取り組んできた事業です。1年目、国費10割補助でしたが、2年目は1/2補助となりました。現在の江差町の取組みは、各施設に介助員を配置する人件費と先進地視察、研修会の実施となっております。今後については、東京都特別区との事業と合わせて、7町で議論していかなければならないと思っています。

江差マリンスポーツ交流センターの整備については、北の江の島構想と銘打って、かもめ島周辺の賑わいの創出を庁内全体で取り組んできました。これまで、海水浴場などソフト事業を展開してきましたが、過去にヨットの国体などもあったことから、もう一度、マリンスポーツのメッカにすべくこの構想でスタートしております。国の地方創生拠点整備交付金事業で1/2の補助を国からいただいて、マリナー艇庫のリニューアルをさせていただきました。2階に宿泊ができるように整備し、合宿や町内の小中学生のレクリエーションに使ってもらいたいと考えたところですが、宿泊される方は今現在なかなかいません。非常に厳しい状況です。宿泊するには、マリナーを活用する方との制約がある点がハードルになっているのかと思います。もう少し、簡単に利用できるような仕組みを考えてまいりたいです。

(追分観光課主幹)

ぷらっとえさしの充実について、開陽丸青少年センター管理棟へ入館者カウントセンサーを6月から出入口の3ヶ所に設置しました。6月から8月の3ヶ月合計で来客センサー数57,878人、開陽丸入館者数は8,340人、ぷらっとえさしのレジ通過客が6,249人でした。カウントセンサーとの差分の方に、実際にお金を払っていただけるような取り組みが必要であると思います。

江差産ニシン活用促進対策事業について、観光サイドとしては、日本遺産のストーリーを前面に出したニシンの活用を考えまして、各イベントでの活用やぷらっとえさしでニシンそばの提供を行っています。また、ニシンの甘露煮を有効活用するために、ニシンまん製品化に向けた試食会を行い、42名の方からアンケート回答をいただき、4名の方が否定的なご意見でしたが、残りの38名の方からは、肯定的なご意見をいただきました。現在、製品化に向けて最終調

整中です。

江差町観光まちづくり協議会の設立について、広域連携の取り組みの追加資料となっております。資料には書かれていませんが、地域だけではなく、民間との連携もありまして、函館大沼プリンスホテルの森のリゾートクーポンが江差でも使えることになっておりまして、プリンスホテルのお客様が実際に江差に来町した実績も上がっております。

北海道江差観光みらい機構の運営強化について、ニシンの有効活用ということで、大型ニシンのぼりを昨年10月に札幌の地下歩行空間で展示してまいりました。非常に注目を浴びたイベントとなり、大きくアピールできたと感じています。

バーチャルリアリティの利用状況は、残念ながら活用実績は伸びていません。しかし、有効的なツールと考えていて、今後、教育旅行への売り込みを進めてまいりたいです。関東以北では、江差町が唯一エントリーされている点が売りとなります。

空き家等のリノベーションプロジェクト「日本一小さな道の駅プロジェクト」について、注目したのは関係人口をつくることです。単に業者に頼んで改修するのではなく、1人でも多くの方に関わっていただける仕組みをつくることでこのプロジェクトは進んで来ました。小さいことを逆手にとって、アピールする趣旨でもありました。行政や地元建築団体、さらには北海道大学・北海道教育大学函館校・東北芸術工科大学の先生や学生にも参加していただきました。また、クラウドファンディングでの資金調達により、コンペと審査で40名、資金調達で265名、小さな商品作りで複数の方等、たいへん多くの方に関わっていただきました。今後、この取り組みがきっかけとなって、町内におけるエリアリノベーション、新たな商品開発に波及することを期待しています。

日本遺産登録については、多言語対応ができていなかった看板を直す時に日本遺産のマークをのせています。

インバウンド対策については、平成30年度の統計はとれておりません。飛躍的に増えている訳ではありませんが、徐々に増えつつあります。2度目の函館は江差へ。次は江差に足を運んでもらえるような取り組みを行っていければと思います。観光施設の多言語化についても、少しずつ行っております。

#### (産業振興課長)

江差町の農業の課題と今後の方針について、江差町北部基盤整備事業・農地流動化促進補助創設・農業機械購入費用助成に関して説明します。江差町の北部に農地が大きく広がっており、その基盤整備をこれから実施してまいりたいと計画しております。かなり大きな事業になります。あわせて農地の流動化の促進。これから農業をやっていく方に農地を集約していきます。それと合わせて、農業機械の助成を進めていくことを考えています。

江差の農業の課題ということで、高齢化があげられます。70歳以上の農業者が経営している農地が、10年後どのようになるか。資料は少し古いですが、H27で205名いる70歳以上の農業者が、H37で445名、実に全体の63%に達することになります。担い手の確保が喫緊の課題です。

地区の整備については、江差北部地域を5つの地区に分割して進めていく考えです。まずは水堀地区を一番に手がけていくことで進めています。大きな区画に農地を変えていくことによって、耕作機械で一気に作業できるようになり、効率が良くなります。人が少なくても農業を続けていくことができるようになります。現状ではほとんどの農家が、農地をバラバラに持っていることから、できるだけ集約や集積を図ります。農家個人に農地を集めることを集積、地区に農地を集めることを集約と言いつけております。水堀地区の事業期間としては、令和3年から令和11年度を予定し、事業費は約20億円程度を見込んでおります。事業費は確定した数字ではないことをご承知ください。

農地流動化の促進について、転作して畑として耕作している方もいますが、その農地の基本は田んぼです。この田んぼを町内の農業者に売った方については、1反(10アール)当たり1,000円を助成します。町外の方ではなく、江差の方に売って下さいというメッセージでもあります。

一方で、町内の農業者が買って、自分で耕作していこうとなった場合は、1反（10アール）当たり基本は10,000円を助成します。農地はだいたい1反当たり10万円前後で売買されておりますので、1割程度の助成となります。この事業は平成29年度から実施しておりまして、6年間で実施してまいりたいと考えています。

スマート農業の推進についても、町として支援していく必要があります。農業機械購入費助成については、平成27年度から実施しており5年目を迎えた今年度で一応区切りをつけたいと思っております。

ナマコ栽培漁業研究事業については、ナマコをまずは漁師さんに採ってきていただいて、クビフリンという産卵誘発剤を注射します。1時間から1時間半ぐらいで産卵します。産卵後、精子と受精させると3時間程度で受精卵ができます。この受精卵を水槽に入れて給餌し、ほんの短期間ですが育てます。次に玉ねぎを入れるネットに付着させて沖だしを行います。受精卵の段階で1,200万尾程度、沖出しの段階で10万尾程度、これは目安目標ですが、実施しております。このように、江差で何とかナマコの数を減らさないでいけるように取り組んでいますし、合わせて、よそから小さなナマコを買ってきて放流することもしております。これまでは、生で販売していましたが、ここで付加価値をつけて販売できないかということで、江差と乙部でタグを組んで、乙部は自然乾燥で小さくする干しナマコ、江差の場合はフリーズドライナマコを作っています。商品にならないものはナマコチップや石鮓に加工して販売しています。フリーズドライのナマコは数時間で戻るということで、中華料理屋さんも扱いやすいとの声をいただいています。ただ、まだメジャーになっていないことから、販売先をこれから増やして行って、扱いやすいナマコであることをPRして行きたいと思っております。平成30年度には、北海道の知事表彰も受けております。

がんばる商店街応援補助事業について、江差の商店が抱えている問題は、人口減少に加えて経営者の高齢化、後継者不足の問題がありまして、商店も大きく減少しております。平成28年度では、20年前の約半分の117店まで減少しています。近年、ただでさえ大変な状況の中、大手のドラッグストアやコンビニエンスストアの進出もあります。今後、商店街が何かのイベントを行う際に支援していかなければなりませんし、お店自体がかなり老朽化してきています。リフォームに対しても支援が必要になってくるかもしれません。冷蔵庫などの機器の更新への支援も考えていかなくてはいけないと思っております。特に江差が一番危惧しているのは、お肉屋さん、魚屋さん、野菜屋さん、雑貨屋さん、その他にケーキ屋さんなど、複数の業種があつて商店街なのですが、スーパーと同じように1回の買い物で用事が足りる。それが、魚さんが無くなった、野菜さんが無くなったとなってくると、何軒か残っていても商店街としての機能が大きく薄れてしまいます。そうすると、多少足が不便でも大きなスーパーへ行ってしまう。これから、その手立てを模索していかなければならないと考えております。

(議長)

可視化（みえる化）資料の説明に続き、人口ビジョン及び総合戦略K P I達成状況の検証結果について説明を求めた。

(まちづくり推進課主幹)

はじめに、検証結果の説明に入る前に、本日配布しました1枚ものの資料について若干説明します。これは国の第2期戦略に向けた基本方針等の資料です。ご承知のとおり国は現在、平成26年に策定した第1期長期ビジョンと総合戦略の改訂作業を進めており、今年12月に完成する予定です。各自治体には、国の2期戦略に基づき並行して次期戦略を策定することを求めています。国は、第2期戦略に向けても現行戦略の枠組みを引き続き維持しつつ、関係人口の増加や子育て、人材育成等にスポットをあて必要な強化を図ることとしています。一方で、資料左下、地方の人口ビジョン・総合戦略に対しては、国のビジョン・総合戦略を踏まえ、切れ目なく改訂することを求めています。国の長期ビジョンについては、現在の人口等の見通しが

第1期の当初時点における推計と大きく乖離していないこと等を踏まえ、時点修正は行うものの、長期的には大きな変更は必要ないと整理されております。また、地方人口ビジョンの策定にあたっては、当初策定以降の状況変化や、最新の数値を踏まえて必要な見直しの検討が求められています。

これらのことや国の手引きを踏まえ、現行の町の人口ビジョンについて、策定当時と同じロジックにより、最新の社人研推計等に基づいて時点修正を加えながら、検証を行いました。

資料2ページは、町の総人口について、社人研推計の平成25年3月推計と、最新である令和元年6月推計をもとにした将来推計です。2015年を100とした時の比率で比較してみました。H25推計では2060年が30.7%、R1推計では26.8%と、推計値は下落しておりますが、3%程度の差は大きな違いとはいえないと考えています。

資料3ページは、年齢3区分別の推計です。2015年比で比較すると、2035年ごろまでは当初の推計よりも、生産年齢人口は高く高齢者人口は低くなっており、改善しています。

資料4ページは、自然増減と社会増減の推移です。これについては現行ビジョン策定時とトレンドに大きな変化はございませんでした。

資料5ページは、出生数等の推移です。これについてもトレンドに大きな変化はなく、人口減少と比例して出生数も出産年齢層人口も減少しています。

資料6ページを省略し、資料7ページです。当町の人口移動は、一貫して道内志向が強い状況がわかると思います。

資料8ページは、資料7ページの道内志向を更に詳しく見たものです。転入・転出とも、札幌、函館、檜山管内が多い結果となっています。9ページから11ページは、それを男女別に見たものですが、説明を省略します。

資料12ページは、2015年国調結果を加えた労働者の推移です。人口減少に伴い、特に二次産業や小売業労働者の減少が顕著です。

資料13ページは、社人研による年齢3区分別人口のH25推計とR1推計、それに現行ビジョンの目標値を記載しました。参考として、今年8月末の住基データも記載しました。8月末の住基人口は、2020年のH25とR1推計どちらよりも多い結果となっています。

資料14ページは、高齢化率と現行ビジョンの目標高齢化率を表示しました。現行ビジョンは、国人口のH25推計時における2060年高齢化率39.9%と同じ水準を保つことを最終目標としています。最新の国の高齢化率ですが、2060年では前回39.9%に対し38.1%に改善しております。最新の町の高齢率は、2060年では前回推計50.3%から52.1%になっており、高齢化が進む結果となりました。

検証結果の総括としては、これまでのグラフでおわかりいただけると思いますが、現時点では、人口ビジョンの目標値達成は難しい状況にあると分析しております。しかしながら、最新のR1推計によれば、2035年までは当初推計よりも、生産年齢人口が高く高齢者人口は低くなっており改善がみられます。当初推計と今回推計値の違いはわずかであって、むしろ年齢3区分比率に改善がみられることから、取組の成果との因果関係は特定できませんが、一定の効果があったと考えることもできます。著しい人口動向。つまり子育て住宅を多数建設したとか、大企業を誘致したとか、そういった状況がある場合には人口ビジョンの見直しは必要ですが、当初策定時から、当町にそういった変化はありませんでした。また、本年8月末の住基人口では2020年社人研推計を上回っており、もし今後2020年を迎えたとしても、推計値と同水準あるいはそれ以上の総人口と見込むことも可能かと考えております。これらのことを総合的に判断して、次期人口ビジョンにつきましても、最新の社人研推計等による時点の修正は必要ではありませんが、基本的な方向性を見直す必要はないものと考えています。

なお、その次の第3期ビジョンの策定にあたっては、当初ビジョンから10年を経過することになりますし、2020年には国勢調査が行われますので、その結果も踏まえた見直しが必要になると考えています。以上、人口ビジョンに関する総括検証結果の説明でした。引き続き、現行総合戦略のKPI達成状況についてご報告します。

年度ごと成果調査シートの1、7、14ページに、基本目標3本の矢ごとのKPIが記載されています。

1本目の矢、江差ブランド製品づくりで仕事をつくるのですが、現時点で6つのKPI中、農地集積率以外5つのKPIが達成される見込みです。各施策の成果が、どのように農産物販売額や水産物販売額に影響したのか等、的確な効果分析や、新商品の事業化、農林漁業、商工業の持続的な環境をいかに充実・強化していけるかが課題であります。

2本目の矢、江差文化体験交流づくりで仕事をつくるでは、6つのKPI中、3つのKPIが達成される見込みです。観光入込客数及び宿泊客数については依然厳しい結果となっており、江差版DMOを中心とする観光まちづくりの更なる強化策が求められています。関係人口の増加や外貨獲得ということでは、情報戦略ということにも一層学んでいく必要があります。また、観光ルート、観光ツアーに関しては、管内連携を強め、東京都大田区との連携も更なる検討が必要です。

3本目の矢、14ページ、江差っ子チャレンジ支援で仕事をつくるでは、7つのKPI中、4つのKPIが達成される見込みです。創業・企業ということでは、まちづくり推進交付金各メニューの再考が必要です。どちらかといえば、福祉政策や家計の下支え的な守りの施策が多い3本目の矢ですが、幼児教育・保育の無償化や子どもの貧困対策等、全国画一的な取組みになってきている背景にあって、いかに江差ならではの施策を打ち出せるかということが鍵になるかと考えています。

以上、現行戦略のKPI達成状況について説明しましたが、全体としては19のKPI中12のKPIが達成され、率にして63%、一部未達成はありますが、概ね順調に推移してきたものと考えてます。

次期戦略に向けては、現行戦略のKPI達成状況を踏まえ、一つには、町の実情に応じて、わかりやすく客観的に捉えやすいKPI設定について、政府指標も参考にしながら検討していきます。またもう一つには、総合戦略に掲げる各施策が、どのような論理体系でKPIに結びついていくのか、企画段階から多角的な視点で事業効果・成果を考え、的確にPDCAサイクルを回していけるような仕組に変えていく必要があります。その上で、現在作業をお願いしている総合計画策定審議会のご意見を頂戴しながら、現行の人口ビジョン・総合戦略を継承しつつ、新たな視点やターゲットも模索しながら次期計画で強化を図ることとします。以上、総合戦略KPIの達成状況についてご説明申し上げ、人口ビジョンの総括検証とあわせまして、委員皆様のご検証をよろしく申し上げます。

(5分間休憩)

#### 【質疑応答及び意見交換（検証作業）】

(議長)

可視化資料の説明内容及び総括検証結果について、一括して質疑、意見を求めた。

(北見委員)

KPIの達成状況ですが、率で63%、項目で19項目中12項目の達成率ということで、半数以上が達成しているということで非常に良くやられていると思います。

(中野委員)

見える化の資料は良く見えて、こんなことをしていただいていることに気がついた。農業の話ですが、私の息子が函館の学校で祖父が農家であることを話したら、まわりの友達が最近のドラマの影響かもしれないが、農家に非常に興味を持っていたそうです。今の説明を聞いて、そういう子達を何とか呼び込めないか。そういう戦略は打てないかと思いました。息子も、祖父がしている仕事を改めて認め、祖父に学校での話を伝えていました。

また人口減少問題について、私の勤務している幼稚園では、20年前は120名の園児がいましたが、今年度は現時点で39名です。人口減少の著しさを実感しています。今年の4月は、警察署に勤務する方のお子さんが転勤で数多く退園して、その反対に転勤で入園してくるお子さんが全くいませんでした。理由は、単身赴任でいらっしゃる方が増えているようです。何とか、転勤される方を家族で呼び込めないものでしょうか。

(産業振興課長)

農業の関係についてお答えします、よそから来ていただいて、新たにここで農業をやっていることが大事です。そういうツールを持ちながら進めています。さきほども言いましたが、これで食べていける、経済的にやっていける規模まで持っていかなければなりません。経営規模が大きくなっていかないと成り立ちません。機械を借金して買ったり、土地を借りたりして、事業をしていくと負担金も出てきます。農家の方は水税（土地改良区賦課金）と言っておりますけれど、毎年毎年返していくお金は莫大になります。そういうなかではありますが、来て下さる方に対して助成をしてみたい気持ちはあります。

(町民福祉課長)

転入転出の話ですが、警察署に限らず3月から4月に400件ぐらいあります。先程言われたように、家族で転出、単身で転入という傾向が続いております。先日伺った話ですが、子どもがどのぐらいの年齢で引っ越すのかしないのかを聞いたところ、小学校高学年になった時には単身赴任すると判断されるとのことでした。それは学力の問題など中学校では遅いということからでした。

学力を含めて、どういった子育て環境に魅力づけを図っていけるのかというところが、今後の課題かと思っております。単に塾の経費を補助しましょうとかではなく、なんらかの形で魅力づけを行い、江差に来てもらう取り組みが今後の課題だと思っております。

(議長)

それは、中学校の魅力を高めていくということも考えられませんか。斬新的なアイデアでやってみるということもあるのではないのでしょうか。

(社会教育課長)

南が丘小学校はどちらかというと転勤族が多いです。南が丘地区は公宅が多いですが、多く空いている状況です。南が丘小学校は、来年度以降複式学級になるかもしれません。自分の家のまわりで子ども見る機会がほとんどなくなってきました。中学校もここ数年は、管外の高校へ行く子どもが圧倒的に増えてきています。それに伴って、江差高校も今年度は2間口となりました。来年は、3間口維持できるようになりましたけれども、予断を許さない状況です。

(議長)

ほかにございませんでしょうか。

(西海谷委員)

皆さんご存じでしたか。ぷらっとえさしでは、ナマコの石鹼を売っております。金額は1,680円とちょっと高いのですが、1ヶ月ほど長持ちします。すごく良い石鹼です。ここで言わなければ、もしかしたらわからない方も多いはずです。これはPR不足だと思います。一度、使ってみて下さい。とても良い石鹼です。

私はみらい機構で働かせていただいて、一生懸命VRのこともやっていますが、若い方はこれで良いです。追分大会の時に、ぷらっとに大きな画面を置きました。ただ、そこに行けば観られることを知らない町民が沢山いると思います。「あそでやっている」と貼り出しをすれば良い

と思います。町会所であれば、おにぎりを持って、お弁当を持って、おじいちゃんでもおばあちゃんでも、近くにあるから行ける。そういうことが大事かと思います。インターネットができる人は遠くでも観られますが、地元において文化会館まで行くのが大変な人達に、もっと情報発信をしたら、ぷらっとでラーメンを食べながら観ようかだとか、そういう部分の情報が今年初めてだったので、もっともっと情報発信をすれば人も集まるし、集まった人と人とが話をする。来年に向けて、私達がやらなければならないことだと思いました。

(議長)

ぷらっとのセンサーはどうか。率直にこれだけ来ているのか、それともこんなものなのか、どういう印象でしょうか。

(西海谷委員)

これを本当は、5月からやっていただきたかったです。5月の連休の人の多さはこんなものではありません。来年の5月の数字が今から楽しみです。

(議長)

出入りの多い時間帯はわかりますか。

(西海谷委員)

お客様商売は、来る時には人が来ます。毎日毎日、お昼から3時までが忙しいかという、そうでもありません。今日はどうして暇なのだろうと思っていると、混んでくる時は一斉に混んできます。人の出入りは予想がつかず、不思議なものです。

(議長)

このセンサーは時間帯でわかるようになっていますか。

(西海谷委員)

わからないです。1日の集計分を翌日にリセットしています。

(議長)

時間帯がわかると、どういう時にその人の波が来るのか、そのとき外で何が起きていたのか、男女の差とか、例えばバスが入ってきたとか、分析ができます。

(西海谷委員)

大まかなことはわかります。学生の自主研修や団体さんが入ったとか、産業まつりがあったとか。そういうものは記載していますが、細かい時間帯はわからないです。

(議長)

機械がいくらするのかわかりませんが、そういうのがあると戦略も練りやすくなります。鈴木副委員長、ほかにありますでしょうか。

(鈴木副委員長)

愛宕町商店街は、平成28年度にがんばる商店街応援補助金を活用してスタンプラリーを実施しましたが、翌年度から実施しなくなりました。愛宕町商店街は仲が良いです。愛宕町商店街となっていますが、組合組織ではありません。かといって、今から組織をつくるほどの担い手もおりません。個々の商店で、肉も魚も野菜も売るのが現実的だと思います。今後、より一層担い手が減っていきます。一番悩ましいところだと思います。

(産業振興課長)

愛宕町商店街は、組合といった組織形態はありませんが、江差町内のなかでは業種が一番充実している商店街だと思います。新栄町や豊川町などに配達をしてくれます。また、一軒のお店に他業種の品物をお願いしても合わせて配達してくれるなど、商店街として独特なシステムを持っています。ここまで協力体制ができてい商店街はなかなかありません。こうしたサービスを受けているお客さんは離れません。その強みを充実していくのも一つの方策だと思います。そのことにお金がかかったり、人が必要だったりするのであれば、それを支援することもこの商店街を守る一つの手立てとなるのでは考えます。

商店街それぞれに特徴があるので、良いところは伸ばしてあげる、弱いところはどう補っていくのか、それに代わるものはないのかということ、考えながらやっていかなければなりません。ただ先ほど言いましたように、差し迫ってお店がかなり古くなってきています。機材が壊れかかっていると、自分達の子が戻ってきて店を継ごうという気持ちにはならないと思います。後継者がいないと言いますが、隠れた後継者がいるかもしれません。商店街がなくなると、地域自体の元気がなくなります。

(まちづくり推進課長)

産業振興課長が言うように、その消費に対する仕組みだとか、移手段を洗い出すと、まだまだ広がり得る可能性があると思います。考え直すところが色々あるのだと思います。

(議長)

函館でもそうですが、地域のなかでどうお金をまわしていくかということも大切です。観光の経済波及効果の話もありますけれど、いかにこの中に留めておくか、データがきちんと出てきません。何となくでやっているところがあるので、これだけの消費が生まれますというのはポジティブな情報になります。明るい話題をつくりだすようなこともやっていかなければなりません。

(まちづくり推進課長)

これが観光と両輪で回りだすとすごい経済活動になります。それを理論立ててやりたいと思います。

(議長)

そのためのデータなのです。皆様にご苦労いただいたデータというものは、北浦委員はいかがですか。

(北浦委員)

代理で出席させていただいております。事前に資料に目を通させていただきました。各課長さん方は真剣に取り組んでおりますし、視点も私どもとそんなに変わらないと思います。どうしても、こういう計画というものは、検証時点で否定的な意見は出しやすいのですが、産業振興課長やまちづくり推進課長が言うように、前に出られる、良い点を取り入れていく方に視点を置いていくと、自ずと相乗効果を上げられると考えております。

これだけそれぞれの取り組みをデータ化してくれておりますので、これをしっかり活かしながら、知恵を出し合って、地域で助け合う・支え合うという気持ちが、さきほどの商店街の話ではないですけれども、特に生活するにあたって高齢者の免許返納の問題もありますが、それを補うためにはどうすれば良いか。前向きのもの考え方がこれ以降の戦略を組む上で、大変抽象的ですが大事だと思います。

(田畑委員)

意見ではなく、感想です。今日の見える化の資料、前回の回答書に資料もつけていただいて、本当にありがとうございます。とても見やすい資料です。これをぜひ、町民にも見ていただきたいすごい立派な資料だと思います。本当にご苦労され、役場職員の方がこの事業に対して、真剣に取り組んでいただいているという感想です。67の項目と19のKPIにそれぞれ熱意があつて、一生懸命やつてそれぞれ成果も出ているし、グラフなんかも出ておりますので、来年度に向けて有効的に活用していただいて、更に磨きをかけていただいて、これを応援してほしいといただければ、僕らも応援しますので、ぜひとも、我々の尻を叩くつもりでがんばっていただければきっと良いまちづくりができると思います。

(議長)

今回の回答書にありましたし、他の委員さんからもありましたけれども、役場の皆さんが何をやっているのかわからないという状態が続いておりましたので、私としても可視化を勧めました。今後はどうやって町民の方に届けていくのか。一部、広報紙を使ってやられているようですけれども、ネットを使って現状を確認できるようにしておくとか、そういうようにやれば良いのかなと思っております。役場職員は、地域のシンクタンクになります。一番情報を持っています。それは町民の方の共有財産でもあり、皆さん税金で動いているということもありますので、その辺りを、もちろん個人情報等はありますけれども、どれだけ町民の皆さんと共有して行って、民間のデータ等と突き合わせながらやっていけると面白いのではと思います。

健康推進課長、一言ありませんか。

(健康推進課長)

医療に関して言えば、ここ数年民間医療機関の閉院があつたりで、地域医療の維持確保が課題です。地域センター病院である道立病院を支えている先生方はほとんどが札医大の先生方なので、札医大に対して要望活動を行っており、札医大も地域医療の重要性を認識されておりますが、札医大から、以前のように常勤医を地域に派遣してもらうことが難しくなっているという現状のなかで地域医療を守る取組みを進めていますが、小さいお子さんをもっているお母さん方はすぐ近くに専門のお医者さんがいてほしいというのが実情です。

道立病院には、常勤で小児科医がいますが、今後、近隣町と力を合わせながら必要な地域医療を守っていくということをやっていかねばなりません。

療育支援が必要なお子さんにとっての環境は、この地域は悪くないと思っています。魅力的なものがあると、もしかするとそういう面で人が入ってくることもあるのかなと思います。

(議長)

まさに社会が色々な意味で多様化しておりますので、我々が今まで気づかなかったニーズがあつたりすると思います。ですから、我々もアンテナをはっていかねばなりませんし、頭の数があればあるほど、そういうものに気がついていけると思います。

予定された時間を過ぎておりますので、これもちまして質疑応答、検証作業を終了し、これまで寄せられましたご意見もちまして総括とします。

(第1号議案について、全体の承認を確認した。)

(午後3時45分)

## 7 その他

(まちづくり推進課主幹)

委員皆様の任期は、来年3月末までとなっておりますが、現行の第1期総合計画の計画期間

は5年間となっており今年度が最終年度です。従いまして、来年度には全計画期間を総括する最後の検証作業を実施する必要があります。

このことから、もう1年任期の延長をお願いしたいと思っております。なお、充て職で委員となられている方が、人事異動や転勤等で変更となった場合につきましては、個別に対応をさせていただきます。以上を提案しますがいかがでしょうか。

(議長)

日程7「その他」の提案について質疑・意見を求めた。

質疑・意見はなく、更に令和2年度の1年間、任期を延長することの提案について、承認を確認した。

(まちづくり推進課主幹)

また、来年度、最後となる検証委員会では、第1期を総括する可視化資料を作り、それを皆さんにお諮りした上、町民向けにも発行することを提案したいと考えています。町民に示す資料は概要版と考えています。

(田畑委員)

まちづくりに関して子ども達の勉強の機会がありますか。この地域が持っている社会の構造だとか、江差の産業がこうなっているとか、教えられる機会はあるのでしょうか。

(社会教育課長)

ふるさと学習を実施しています。なかなか日本遺産の事業が見えないということで、小学校、中学校、高等看護学校、江差高校にも行ったり、年間でかなりの回数をやっています。

(議長)

せっかくこういうデータをつくっていただいているので、来年度に向けて教材化できたら良いと思います。皆さんがこうやっていただくことで、我々の考える材料となります。どうかご自愛いただき、無理のないようにやっていただければと思います。

## 8 閉会

(議長)

これをもちまして閉会します。本日は誠にありがとうございました。

(午後3時50分)